

木山捷平—その人と文学

き やましようへい

木山捷平は明治 37 (1904) 年 3 月 26 日、岡山県小田郡新山村山口 (現在笠岡市山口) に生まれました。矢掛中学校 (旧制) 在学中から樹山宵平の筆名で〈文章倶楽部〉等の文芸雑誌に詩・短歌・俳句などを投稿したり、同級生と同人誌〈余光〉を出したりするなど、旺盛な文学活動を開始します。

大正 12 年姫路師範学校を卒業、兵庫県出石町弘道尋常高等小学校に奉職しますが、大正 14 年、文学者として身を立てるべく上京、東洋大学文化学科に入学。浅口市出身の詩人赤松月船主宰の詩誌〈朝〉(のち〈氾濫〉と改題) の同人となり、本格的に詩人としての道を歩み出します。昭和 4 年第一詩集『野』、同 6 年第二詩集を出版。昭和 18 年第三詩集『路傍の春』を出版するつもりでしたが、出版検閲で不許可になり、昭和 42 年刊『木山捷平詩集』が事実上の第三詩集となっています。

捷平の詩の特徴は、純朴な田園生活への郷愁、都会をさすらう孤独な自らへの自嘲や社会の悪に対する憤り、更には庶民の生活の哀歓をユーモアとペーソスをたたえながら、素朴な (むしろ泥くさい) 言葉で飄々と歌いあげている点にあります。そこには社会の片隅に生きる弱い、虐げられた人々への限りない愛情がにじみ出ています。

昭和 8 年、古谷綱武・太宰治らと同人誌〈海豹〉創刊に参加、「出石」(小説デビュー作)、「うけとり」「子におくる手紙」などの短編を同誌に発表、小説家としての道も歩み始めます。更に〈青花〉〈日本浪漫派〉などにも加わるとともに、創作集『抑制の日』『昔野』『河骨』、長編『和氣清麻呂』等を刊行して旺盛な作家活動を続けます。

昭和 19 年 12 月、文学活動の新天地を求めて旧満州の新京 (現在中国東北部長春) に赴きますが、昭和 20 年 8 月、現地召集を受けて入隊、特攻訓練中に敗戦。生死の間をさまよう難民生活を送って、昭和 21 年 8 月郷里山口に帰還します。昭和 24 年上京、都会生活や旅行、渡満体験などを題材とした作品を中心に意欲作を執筆。特に昭和 31 年発表の「耳学問」は好評を博し、多くの木山文学ファンを獲得、大作『大陸の細道』が昭和 37 年度芸術選奨文部大臣賞を受賞するに及んで名実ともに文壇での地位を不動のものにします。その後も身近な題材を巧みに昇華し、独特の表現法を用いる作風はますます円熟して、数多くの小説や随筆を執筆、『苦いお茶』『茶の木』『石垣の花』

『角帯兵児帯』等の作品集を刊行します。その作品は、「反骨」「自虐」「飄逸」「とぼけ」等と評され、また「庶民の生活の機微をうがち、人生の哀歓をユーモアとペーソスをまじえて写し出す文学」であるというのが定評になっています。昭和 43 (1968) 年 8 月 23 日、64 歳で逝去。生家裏の長尾山の墓地に、自筆で「木山捷平」とだけ書かれた墓標の下に眠っています。

なお、木山捷平の生家は平成 30 年、ご遺族により笠岡市に寄附され、保存・公開されています。



●木山捷平生家 (市内山口)

笠岡市内にある捷平文学碑



● 古城山公園の「杉山の松」詩碑

1 「杉山の松」詩碑（古城山公園）

「杉山をとほりて／杉山の中に／一本松を見出でたり。／あたりの杉に交って／あたりの杉のやうに／まつすぐに立ってゐるその姿／その姿がどうもをかしかりけり。」という詩が彫ってあります。昭和3年、24歳のときの作です。自らの文学を貫き通すために孤独と向き合い、寂しさに堪えて生きる捷平さんの人柄が一本松の姿に通じます。昭和45（1970）年11月に井伏鱒二氏らの発起で建てられました。

2 「ひんがしの」望郷歌碑（市内山口の生家）

捷平さんの生家は、JR笠岡駅から県道笠岡美星線を北へ約10キロ、道路沿いの左方、長尾山のふもとにあります。生家の庭に歌碑が立ち、捷平さんの短歌「ひんがしの島根の中つ吉備つ国／黍（きび）生ふる里を誰が忘れめや」が刻まれています。この歌は満州（中国北東部）で故郷をしのんで詠んだ連作の望郷歌の一首。昭和47（1972）年3月に中学時代の友人たちによって建てられました。

3 「五十年」詩碑（市立図書館の前庭）

「濡縁におき忘れた下駄に雨がふってゐるやうな／どうせ濡れだしたものならもつと濡らしておいてやれといふやうな／そんな具合にして僕の五十年も暮れようとしてゐた」。このしみじみとした思いは、不遇であった自らの半生を濡れた下駄に重ね合わせ、自虐とも自嘲とも、また諦観とも満足ともつかないような心境に浸っている捷平さんの自由な精神を感じさせます。昭和63（1988）年3月、市立図書館内に「木山捷平文学コーナー」を開設した際、前庭に建てられました。



● 市立図書館前庭の「五十年」詩碑

木山捷平文学コーナー



● 市立図書館2階「木山捷平文学コーナー」

笠岡市では、郷土出身の詩人・作家木山捷平さんの文学的業績を称えとともに、捷平文学の魅力を多くの方にお伝えするため、ご遺族の協力を得て、昭和63年3月から市立図書館内に「木山捷平文学コーナー」を開設しています。自筆の原稿や色紙、著書、雑誌、写真、愛用品等を展示しています。図書館では捷平さんの作品の閲覧や貸し出しも行っておりますのでご利用ください。

《開館時間》 火～日曜日 9時30分～19時

《休館日》 年末年始・毎週月曜日・毎月最終金曜日（館内整理日）・特別整理期間（年1回）

《所在地》 岡山県笠岡市六番町1番地の15
笠岡市立図書館内

《TEL》 0865-63-1038